総論

「情報化社会で生きる我々に必要なこととは」

約 5 エクサバイト。これは、文明勃興から 21 世紀までに生成された情報量である。現代社会においてはこれと同じ情報量がたったの 2 日間で生成される。情報化の進展に伴い、大量の情報を高度に処理するためのハードウェアは私たちにとって欠かせない存在となっており、このような物理的基盤の上で、ソフトウェアが活用されることで様々な社会的基盤を生み出している。

これは、時間的・資源的コストの削減といった業務の効率化をもたらし、また、IT に関わる多くの産業の創出を実現した。そして、人々は地理的距離によらず、意思疎通を図ることができるようになり、世界はより心理的に近接化し一体化することになった。

しかし、様々な副作用が懸念されている。効率化の源泉である AI の性能は、日々生起される莫大な情報によって加速度的に向上するため、従来より早く機械による労働代替は進んでいく。そして代替された職からの転職には時間がかかりそれに代わる新たな職の創出も容易ではない。そのため、機械による労働代替への適用は円滑に進まず、調整過程で大規模な失業が発生しうる。また、世界全体を通して心理的距離の近接化は実現したものの、より原始的な Face to Face の意思疎通、つまりは、身近なコミュニケーションの機会が減少するようになった。これは、孤独化を助長するとされており、ひきこもり、離婚率の上昇、また、若者の早期離職の増加とも関係があると指摘されている。

「科学技術に優先するものは人間の正しい思想だ。技術を持つ人間が、それをどのように利用するか、世の中に貢献するか、しないかで、その価値が決まる」

（本田宗一郎）

この言葉に表されるように、技術を使う我々は現状を冷静に分析し、正しい思想を身に着ける必要があるのである。本分科会では、情報化によってもたらされた明暗両側面を分析し、人類と情報化社会の在り方について議論していきたい。

38th SYMPO EXECUTIVE COMMITTEE. All Rights Reserved